

第 5 回 高田馬場駅周辺地区交通バリアフリー推進部会

議 事 要 旨

議事内容

1. 議事次第

- 1) 平成 20 年度特定事業計画の進捗状況について

2. 主な議事内容

サービス介助士について

- ・ 各事業者では職員の資格取得を進めており、現場への人員配置も進んでいるが、資格者の車いすへの対応力は高まっている一方で、視覚や知的など、他の障害者への対応が不十分なところも見受けられる。サービス介助士の障害者への貢献度を評価してみることも必要ではないか。
- ・ サービス介助士が様々な事象に対応できるよう、資格取得後のフォローも必要だろう。

エレベーターの運転時間について

- ・ 民間の建物に設置しているものは、建物側の状況により運転時間に制限があるのは仕方のないところもあるが、自社の施設内に設置したものについては、運転時間を鉄道の営業時間に合わせることを原則として欲しい。

歩道整備・道路設計について

- ・ バス停で車いすが乗降しやすくするための歩道マウンドアップや横断歩道で車いす使用者が信号待ちをするための歩道の平坦部確保について再確認があった。
- ・ 設計指針やガイドライン等でバリアフリーに関する整備項目が示されているが、その内容や趣旨を現場に的確に反映させていくため、現場レベルで知識や意識の向上を図って行く必要がある。

エスコートゾーン（横断歩道部の視覚障害者誘導施設）について

- ・ 交通管理者（警視庁）が横断歩道部に整備を進めているエスコートゾーンと道路管理者（国道・都道・区道）が歩道部に整備している視覚障害者誘導用ブロックは、連続性などについて管理者相互が連携を取っていく必要がある。

視覚障害者誘導用ブロックについて

- ・ ブロックの劣化により輝度比の低下や景観上の問題も生じてくるので、メンテナンスが大変重要である。
- ・ ブロックの色は黄色が基本色として使われているが、白や黒などモノトーンの色であれば所定の輝度比を確保できる可能性がある。

今後の推進委員会、部会について

- ・ バリアフリーの進捗について、定点観測やモニタリングなど、年 1、2 回の頻度で継続して開催していくことは必要だろう。
- ・ 委員の交通費などについて予算化が検討できないか。